

# 日本労働者の生活状態

鈴木 文治

實は今晩私は前座を勤めさせて頂く譯であらうと思ひましたが、石川さんの御都合で入り代らなければならぬと云ふことになりました。唯今石川さんの大變話上手な且非常に有益な御講話のありました後に、一向珍しくもない或は大した有益でもないかと思はれる私の話を御聴きに入れますことは、甚だ心苦しい譯でありますけれども、多少の準備も致して参りましたから暫くの間御清聴を煩したいと存じます。

我國の労働者の状態を申上げるに當りまして、第一に我國の労働者の數が凡そどれ程あるかと云ふことを申上げる必要があると思ひます。労働者と一口に申しましても其種類が甚だ多くして、全體の労働者に就て正確に申上げますことは、統計の徴すべきものがありませぬから申上げることは出来ないであります。併ながら大體茲に、工場の労働者即ち職工、それから礦山に働いて居る労働者、それから海上に働いて居る労働者即ち船乗のやうな種類の者、及農業に従事して居る労働者、此等の労働者の數が凡そどの位あるかと云ふことを申上げるのが説明の順序として甚だ必要なことであると思ふのでござい

ます。我國の労働者の中で職工の数は、大正元年の統計に依りますれば、男工が三十四萬八千二百三十人、女工は男工より多くして五十一萬五千二百十七人でございます。兩方合せますると八十六萬三千四百四十七人と云ふことになります。且工場などに於きましては熟練の職工が必要でありますのみならず其等の職工の手傳をする人夫も必要でありまして、其労働人夫の数が男女合せて十六萬四千七百十八人となつて居ります、そこで職工及労働人夫を合計致しますと百二萬八千六百六十五人となります。先づ約そ百萬人と申すならば大體間違ない所であると思ひます。併し私は此統計は聊か精確を缺きはしないか實際の数は是れ以上であらうかと思はれるのでございます。例へば大阪の如きは、二三年前の大阪府の調べに依りますと、大阪府下に於ける職工の總数が七萬幾らと心得て居りましたが、最近に至つて正確な數を見ますると、職工十人以上使ひます工場に働いて居る所の男女職工數が約十六萬ありまして、若し十人以下の職工を使つて居る所謂家内工業に従事して居る者を合せますと男女合せて二十六萬幾らと云ふことであります。それが七萬か八萬と云ふことに見積られて居つたのでございますから、此數も家内工業に従事して居る者も加はる時には殆ど二倍位はあるではあるまいかと思つて居ります。けれども統計の數字がさう云ふ風になつて居りますから、先づ約そ百萬と申上げたらう宜からうと思ひます。

それから各種の礦山に働いて居る労働者の數です。金屬の礦山或は炭山或は石油の礦山と云ふ如き總ての礦山に働いて居る所の労働者の數は、是も大正元年度の統計に依りますと、二十三萬四千三百五十

人でございませう。それから船乗の数は約そ六萬人と聽いて居ります。それから農業に従事して居る所の労働者の數です、是は人數を以て申すことは甚だ困難であります。何故かと申しまするに農業に従事して居る者は男も女も子供も居る、併し子供は學校にも行つて居る、働かざるものと云ふ譯であつて、労働者と云ふ者を個々に人數を以て計へることは困難でありますから、是は農家の戸數を以て申上げる外はないと思ひます。そこで農家の數がどの位あるかと云ふと、是も大正元年度の統計に依りますると、自作農、小作農、自作兼小作農、此三つに分けまして、自作農の戸數は百七十六萬四千八百八十一戸、小作農が百五十萬三戸、自作兼小作農が二百七十七萬三千八百六十三戸となつて居ります。自作農の農家は是は労働者と申しまするよりは、先づ一廉の中産階級に屬する者と見るのが至當と思ひますので之を姑く除きまして、小作農及自作兼小作農此二種類の農業に従事して居る所の労働者の戸數を合計致しますると三百六十七萬三千八百七十戸と云ふことになります。若し之れを人口の方から申しまして假りに計算致しますと、一戸平均五人の家族と見て其人間の數が一千八百三十六萬九千三百五十人と云ふことになります。之を以て見ましても、我國の労働者の大多數が農業労働者であると云ふことを知り得るのであります。日本ばかりではありませぬ英國を除く他の歐米各國に於きましては、労働者の割合は農業労働者が最も多いのでありますが、取分け日本に於てそれが多いやうであります。

以上は工場の労働者、礦山の労働者、それから海上に働いて居る労働者、竝に農業労働者と云ふ風に

分類して申上げたのでありますが、其他統計に現はれて居ない所の者、假りに自由労働者例へば、車屋大工或は煉瓦屋、瓦師と云ふやうな労働者の数は統計上では知ることが出来ないけれども、是れ亦實に尠なからざる人数がありました、日本の人口の七割乃至八割若くはそれ以上を占めて居る所の者は労働者並に其家族であると云ふことを推定することは決して是は妄斷でないと思ふのであります。

斯う云ふ風に考へて見ますると、近世に於て經濟學者其他一般の社會の識者先覺者に依て叫ばれます所の労働問題と云ふものは、單に労働者のみの一階級の問題たるに止まらずして、實に一國の重大問題であると云ふことが出來ると思ふのでございます。そこで今晚特に申上げたいと思ひますことは、主として工場に働いて居る所の労働者の状態でありませぬ。是は割合に調べも能く出來て居り且農業労働者を除いては國民中の大多數を占めて居るのでありますから、此工場内に於ける職工労働者の生活状態を申上げますれば、それを以て殆ど他の種類の労働社會の状態を推定することが出來ると思ふのでございます。

第二に、然らば其等の労働者の一日の労働時間がどの位かと云ふことを申上げなければなりません。是は恰も今年九月一日より將に實施されんとして居ります所の工場法に就て、農商務省で取調べた結果に就て申上げるのでありますが、茲には四種類の工場に就て申上げます。紡績工場、生絲工場、織物工場、印刷工場、此四種類になつて居りますが、此の取調べに依りますと、紡績工場に於きましては労働

時間が毎日十二時間であります。是は晝夜交替である、紡績業はどの會社でも必ず晝業と夜業とある、即ち夜を以て日に繼ぐと云ふ話が先刻ありましたが、實際晝夜兼行でやつて居る、獨逸の如く八時間交替でなくして日本のは十二時間交替である。二組になつて居りまして、夜六時から朝六時まで働く者が一組、更に朝六時から夕方六時まで働く者が一組、斯う云ふ風にして一週間づゝの交替になつて居ります一週間目に一日休んで、其休む時に夜と晝と交替をして作業を繼續して居ると云ふ有様であります。それから生絲工場に於きましては、それより更に長くして十三時間乃至十五時間であります。織物工場に於きましては更に長くして十四時間乃至十六時間であります。印刷工場は十三時間乃至十五時間であります。其他色々な種類の工場に於きましては、大抵の工場の先づ定められてある時間は十時間であります。朝七時に作業を開始して夜の五時に仕事を終る、是が普通定つた労働時間でありますが、昨今のやうに工業界の非常に忙しい折には殘業又は夜業と稱へて、二時間乃至四時間即ち夜七時又は九時まで作業を繼續致します。それ故に十時間作業となつて居つても昨今の事實の上から申すと、大抵の工場では少くとも十一時間多くは十四時間、特別の工場では更に十六時間を労働して居る有様でございます。是は實に労働時間と致しましては非常に長過ぎる、労働時間の長い點に於ては日本の如きは殆ど所謂記録破りである。斯う云ふ長い時間を課して居る國は少くとも世界の一等國若くは文明國と云はれる國にはございませぬ。亞米利加の如きは大抵八時間であります、八時間以上を働くものをオーヴァertimeと

申しまして、時間外の労働を已むを得ざる時に課して居りますが、其一時間の給金は普通時間の二倍を仕拂ふことになつて居りまして、殊に婦人小兒の労働者の如きは殆ど全米國到る處として八時間以上は如何なる理由あるも従事させることは出來ないことになつて居ります。若し八時間以上婦人又は小兒に對して労働を強制するやうなことがあれば、それを強制した者は或は體刑に處せられ或は罰金刑に處せらるゝやうな嚴重な法律があります。私が昨年夏日本の労働團體の代表と云ふ意味を以て、米國桑港に開かれましてる米國労働大會に出席致しました折に、多くの代表者の連中から日本の労働時間を問はれました。亞米利加の労働時間は大抵八時間であるに拘はらず日本は十二時乃至十四時間であると云ふことを申すのを甚だ苦痛に感じた次第であります。是なども或は能率増進と云ふ理法の上から考へますれば、殆ど人間の體力の堪え得ると云ふやうなことを無視して居るやり方であると云はなければなりません。能く日本の職工は能率が少いとか、労働工程が少いと申されますけれども、労働工程の少ない所以は労働時間が過重なる所以であると私は斷言せざるを得ない。それ故に大抵の方々は或は植木屋の仕事をお覽になつたり、或は大工の仕事をお覽になつたりして殆ど御推察が出來ると思ひますが、日本の労働者は労働時間内十分に働かない。私が亞米利加に參りまして方々の工場を觀ましたが、成る程労働時間は短いけれども、亞米利加の労働者は時間内に嚴格に働いて居る。朝七時に作業と云へば、七時カッキリに始める、さうして夕方四時或は五時と云ふことに定つて居れば、其就業時間の合圖の鳴るまでカ

ツキリ仕事をして居る、一分間と雖も疎かにして居るやうなことはない。所が日本の労働者の労働状態を見ますと、朝でも仕事をカツキリ始めませぬ、工場内に働いて居る間でも、若し監督者の廻つて來ない場合には仕事を休んで遊んで居る者も少くない、殊に徹夜業などをやる場合には、十時間とか十二時間とか定めてあつても二時間や三時間はキット眠つて居る。さうして夕方五時が終業時間と定つて居つても大抵汽笛の鳴る十五分前か若くは二十分前位から仕事を止めて手を洗つたり、道具を仕舞つたりして汽笛の鳴るのを待ち構へて居る、さうして汽笛が鳴ると我先きにと工場を出る。であるから日本の労働者は成る程時間は長いけれども、實際に働いて居る労働時間は長くない譯になるのであります。そこで労働機能が外國の労働者と較べて擧らない譯であります。日本では工場法が實施されても、事實上成年男子には時間に制限がないと云ふても宜いやうな譯であります。工場法で時間を制限しないでも日本の職工は自分で制限して居る、さうして自分が十時間なら十時間働くと云ふのを、八時間位で仕上がるだけのものを十時間に伸してやつて居ると云ふ有様であります。

斯様な譯でありますから、労働者は長く働いても其效果の擧がる筈がない、効果が擧がらないから資本家の側から申せば勞銀を高く拂ふことが出來ないと云ふことになる、けれども労働の機能が擧がらないから賃金を餘計拂ふことが出來ないと致しましたも、工場の設備なり經營の資本等に就て餘程損をして居ると思ふ。即ち夜作業を致しますならば電燈の設備とか、或は蒸汽機關を焚く燃料であるとか、或は

動力を使ふ程度と云ふやうなことでチョット目に見えないやうな所に於て餘程損をして居ると思ふ、近頃工場の作業に於ても所謂科學的經營法と云ふやうなどが行はれまして、如何にしたならば職工の労働功程を進めることが出来るか、如何にしたならば能率を進めることが出来るかと云ふことに於きまして、官立と云はず私立と云はず追々實施されて來るやうでありますけれども、併ながら大勢を見ますと餘程無駄なことをして居る。先刻の御講演の中にも伺ひましたが、獨逸のクルップ會社に於て晝夜兼行で仕事をする時に、八時間交替で三組に労働者を分けて八時間づゝ労働させる仕組みを執つたと云ふのは流石に獨逸であると敬服したのであります。日本では短い時間に多くの仕事をするのを總ての點に於て有益であると云ふ考を有つて居る人は少い、餘計働けば餘計仕事が出来ると思つて居るのであります。が、是は非常な間違でありまして、日本の工業の經營の方法は極めて非科學的であると思ふ。獨逸の如きは流石にさう云ふことは研究が届いて居りますから三交替にしてやつて居ると云ふことは、餘程巧みな經營方法であらうと思ひます。日本の如き仕事が忙しくなると労働時間を伸ばすことに依て功程を増さうとして居りますけれども、労働時間を増すと云ふことは必しも労働功程を増すと云ふことにならない。中には夜晩くまで作業を致すと、晝の時間中に出來上るやうなことを、今夜は夜業があると云ふので夜業の分に取りつて置くのがある。さうして夜は兎に角辨當代を貰ふとか、或は幾らか増賃をして貰ふと云ふにやつて居るのが少くない。是は監督しされるものではない、どうも其點に於て日本の工場經營



が甚だ非科學的であると云ふことを考へなければならぬと思ひます。

そこで勞働賃金でありますが、一體勞働賃金がどの位であるか、勞働賃金は勞働者の生活状態と密接な關係がある。是は職業に依り或は職工の技術に依り又工場に依ても違ひまして一様に申すことは出来ませぬが、進んだ國に於きましては最低賃金法と云ふものを設けて、例へば濠洲の如きは法律を以て、何種類の職業は其最低賃金どの位と、即ち勞働者の生活を保障すると云ふ意味を以て勞働者の収入の最低限度が定められて居りますけれども、日本ではさう云ふ法律の制定がないのでありますから、殆ど職工各自の或は工場主かの個人契約に支配されて居るやうな有様である。勿論大體の相場と云ふものはないではありませぬけれども、時に依り所に依り或は人に依て一様に申すことは出来ませぬ、けれども凡そどの位かと云ふと、之には農商務省の統計もあり、或は先年内務省で細民調査を致しました時の調査もあります。細かい事は略しますが凡その見當を申しますと、農商務省と内務省の統計が殆ど一致して居りまして、即ち勞働者の一日の平均収入が先つ六七十錢であります、一箇月の収入が二十圓以内であつて二十圓以上の者は少い、大抵十八圓乃至二十圓と見たら大差ないと思ひます。内務省で細民調査を致しました折に職工の家族を三百戸取りまして研究したのであります、其統計の取り方などは専門の立場から申しますと随分賛成の出来ないやうな仕方でありまして、概略申しますと、矢張職工の収入が二十圓前後の者が一番多かつた、さうして二十圓以下十五圓までのものと二十圓以上二十五圓ま

での者を比較致しますと、二十圓以下十五圓までの収入の者が二十圓以上二十五圓以下の収入の者より多かつた、さうすると一日六七十錢、一箇月十八圓乃至二十圓の収入と云ふことが殆ど平均の割合であると申すことが出来ると思ひます。

尙工場以外の労働者の賃金のことでありまして、東京の商業會議所で調査した所の表があります。大變數が多いから一々申上げませぬけれども二三御話し致します。此東京商業會議所の調査は大正三年九月の調査であります。少し統計が古いけれども多少の御参考になるかと思ひます。先づ米搗労働者の賃金を申しますと、最高が日給四十一錢、最低が三十七錢となつて居る。それから和服の仕立屋の給金は一番好いのでありますが、月給で賄付で最高二十七圓、最低十三圓五十錢と云ふことになつて居ります。それから大工職最高が賄付で一日一圓二十五錢、最低が一圓五錢、それたら煉瓦製造職が是は賄なしで一日の給金最高一圓十五錢、最低五十錢、植木職が是も賄なしで日給最高八十五錢、最低七十五錢と云ふことになつて居ります。それから日傭人夫の男が最高六十五錢、最低五十五錢となつて居ります。序に下女下男の給金を申しますと、下男は月給賄付で最高七圓、最低四圓であります。下女が同じく賄付で最高四圓五十錢、最低二圓五十錢、斯る云ふ風になつて居ります。尙色々ありますけれども煩しいから大體に止めて置きます。

茲でチヨット其數字のことに就て申上げなければなりません。此商業會議所の調査の報告は、どうも

實際の賃金よりは高過ぎる、是だけの収入を得て居る労働者は私の知る範圍に於ては殆どないといふても宜い、然るにどうして斯う云ふ調査が擧つたかと云ふに、是は日本の労働社會に於ける一種の制度に據るのであります。それは何かと云ふと所謂親方制度であります。労働者が直接需要者の所へ行くのではなくして、其間に仲介する所の親方と云ふ者がある、其親方なる者が需要者より労働の口を引受けましてさうして需要者より受ける所の賃金は相當なるものであるけれども、實際労働者自身の手に入る収入はそれだけ多くないのであります。即ち俗に頭アタマを刎ねると云ふことをやる、最も少いもので十錢、多いのは二十錢若くは三十錢五十錢位頭を刎ねる。でありますから需要者より仕拂ふ金は相當に高いけれども、労働者自身の實際の収入は遙に少いのであります。例へて申せば茲に日傭人夫がある、其賃金が最高六十五錢、最低五十五錢でありますけれども、實際の人夫の一日の収入は、最高四十五錢最低三十五錢位であります。而も其需要者たる者の仕拂つて居る賃金は六十錢位であります。それ故に茲に最高六十五錢最低五十五錢と云ふ調べが出るのであります。

さう云ふ有様であります、茲に私は實際の労働者の生活が如何なるものであるかと云ふことを説明致したいと考へまして、其標本ともなるべき所の五種類の家族の一日の生計状態を精細に取調べたものを持つて参りました。是は米價騰貴で労働者の生活難を訴へて居る時分の調べであります。併し今は米價は安いが米以外の副食物其他の物價が騰貴して居りますから、矢張労働者の生活状態は依然として變

らないで苦しむのであります。其實際の所を申上げて見たいと思ひます。甲乙丙丁戊と分けまして、第一に甲の家族に就て申上げます。

甲の家族は主人が工場の機關部の油差職工であります、女房が家で内職をして居る、さうして八歳の男の子が尋常小學の二年生で、其親子三人の一家族であります。主人たる其職工は日給を八十錢取る。それから女房が内職をして一日に二十錢取る、即ち一日の収入が一圓になるのであります。勿諸休む日もありますから、一日一圓の収入と云ふことは一箇月三十圓と云ふことゝはならない、二十五圓か六七圓に過ぎないのであります。そこで一日の狀態を申しますと、親子三日で一人に食べる米の量が一升二合であります。米價騰貴の時であるから内國米と外國米を混合した所の五等米を食べて居る、其一升二合の代價が二十六錢六厘であります。それから電燈などは使はないでランプを使つて居る、其ランプに用ひる石油が一日二錢五厘、副食物が十五錢、漬物醬油味噌の代價が五錢五厘、薪炭の費用が四錢二厘それから湯錢です、主人は毎日湯に入り、女房と子供は隔日に入る、之を一日に割當てると湯錢三錢五錢となる、交際費——交際費と云ふのは勞働者の家庭で贅澤と云ふ風に考へられるかも知れませぬが、併し勞働者には勞働者の交際がありました、例へば町内の交際とか、衛生費とか、或は祭禮の費用とか或は友人や親族の家に祝事がある凶事があると云ふ場合に要する費用、是が一日一錢、それから此家族は水道を使つて居りませぬ水の不自由な處で汲んで貰ふ、そこで飲料水が一日の價二錢、それから子供

の小遣、女房の髮結錢、主人の散髮、此等を合せて一日平均十錢、それから新聞を勞働者でも一つ位は見て居ります。是は大阪でありますが大坂朝日の新聞代が一日一錢五厘、小供の教育費が一錢五厘、それから衣類の修復をする費用が一日五錢、家賃が一日十錢即ち一箇月三圓であります。それから此主人公は少し左の方が利くので晩酌をさこし召すのです、其晩酌が一合金七錢、餘り上等の酒ではありませぬ。それから此夫婦は煙草を喫みます。主人公が巻煙草を喫む、それも餘り上等でないが巻煙草を喫む女房は刻煙草を喫む、其煙草が一日五錢、それから雜費、即ち臺所道具とか、色々細かい道具などの費用、それが一日平均六錢五厘、合計一圓八錢一厘であります。夫婦共稼ぎてやつて収入と差引すると八錢一厘の不足である、此不足をどこかで切詰めなければなりません。そこで晩酌を先づ一合のところを五勺に減すと三錢五厘の餘裕が出る、それから煙草を全然廢すと五錢の餘裕が出る、即ち一日に八錢五厘の儉約が出来る、さうすると差引金四厘だけ餘る譯であります。けれども酒も煙草も一時に廢すと云ふことは、勞働者の家庭が一體に何等の娛樂も慰安もないことになつて、之を絶対に禁止すると云ふとは禁酒會員のやうな人は別でありますが、勞働者の實際の生活状態から申しますればそれは非常に苦痛であります。

次は乙の家族に就て申し上げます、是は夫婦二人きりであります。主人公は打綿職工でありまして、其日給が五十五錢、女房が紡績工場に出て居りまして其日給が三十四錢、合せて夫婦の収入が八十九錢で

あります。之を如何に使ふかと申しますると、此夫婦は獨立的に一戸を持つことが出来ない爲め他人の二階に間借をして生活して居ります。其一日の生活費用を申しますと、米の量が九合でありまして此代金が二十錢七厘、石油が二錢五厘、副食物が十錢、漬物味噌醬油の代價四錢、湯錢が二錢、交際費が一錢五厘、夫婦の小遣が一日十錢、被服の費用が十錢、家賃が五錢、煙草は亭主ばかり喫みますが、刻煙草を用ひて居る。時には巻煙草を喫みます、是が平均三錢、雜費が五錢、合計七十三錢七厘であります。さうすると収入と差引殘高が十五錢三厘であります。是は大變經濟なことでありまして十五錢三厘の餘裕が出来る。けれども是は夫婦二人きりで永久に間借の生活をして居ることが出来るかと假定しての計算でありまして、夫婦で生活するならば必ず何時か子供が産れる、さうすると子供の養育費とか教育費と云ふものが掛る、さうすると乳呑子が出来れば女房は職工に行つて働く譯にも行かないから、即ち乳呑子を抱えて内職をするとしても、一日三十四錢は得られない、詰り子供が産れば収入が減じて支出が増す、さうすると又一家は破綻に瀕せざるを得ないやうな有様になる。

第三に丙の家族でありますが、是は主人は倉庫係の仲仕をして居つて日給が六十五錢、女房が内職をして一日十錢、夫婦の間に乳呑子が一人ある。女房は前に紡績工場に女工として出て居つたが、子供が出来てから工場に通ふことが出来ないで家に居つて子守をしながらミシン縫の内職をして居るのです。即ち一日の夫婦の収入が七十五錢であります。生活費の内譯を申しますと、米の量が九合五勺此代價が

二十八錢八厘五毛、石油が三錢五厘、前には二錢五厘でありましたが——細かい所に能く御注意を願ひたいが、乳呑子がある爲に夜中豆ランプを點して居る、其爲に石油が一錢殖えて一日の消費料が三錢五厘となつたのです。副食物の代が十錢、漬物醬油味噌の代が四錢、薪炭費が四錢、湯錢が三錢五厘、交換費が一錢、水代が二錢、小遣が十錢、被服の代が五錢、家賃が十錢——此家賃の點も實際斯う云ふことをやつて居ります、五圓の家賃で家を借りて居つて、其中一間を二圓で他の夫婦者に貸して居つて、自分が三圓拂つて居ります。即ち一日の家賃が十錢になる譯です。それから雜費が十錢、合計七十八錢八厘五毛であります、即ち収入と差引不足が三錢八厘五毛となります。

次に丁の家族でありますが、是は主人の職業はバンドを織る職工であつて一日の賃金が七十八錢、女房は其會社の仕上部の女工になつて居つて一日三十錢、夫婦の間に二つになる幼い子供がある。夫婦共稼して居るから到底子供を養ふことは出来ませぬ爲に、可愛い自分の子供を里子に出して居る、さうして纔に生活を凌いで居る。一日の生活費を申しますと、米と麥と合せて食べまして即ち三等米が七合麥が二合此價十九錢八厘、石油代が二錢五厘、副食物が十三錢、漬物醬油味噌の代が五錢、薪炭費が四錢、湯錢は夫婦共毎日入つて五錢、交際費が一錢、小遣が七錢、被服に要する代が十錢、家賃が五錢、主人が晩酌を五勺づゝやる其價が四錢、それから煙草、是は夫婦共に刻を用ひて居ります其價が三錢、子供を里子にやつて居りますから其養育費が一箇月三圓、其他心付とか子供の着物の代として一圓やる、即

ち一日に積ると十三錢三厘、雜費が十錢、合計一圓一錢六厘であります。そうすると共稼しても収入と差引殘高が僅に六錢四厘であります。

更に今度は第五番目の戊の家族を申しますと、是は職工でなくして或會社の巡視係をして居る所の雇人であります、極く下級の雇人ですから日給で九十五錢、女房が内職をして一日に二十錢取る、合せて一圓十五錢、是だけの収入であつて、夫婦の外に六十三歳になる老母と三歳になる子供が一人居る、さうして老母が此三つになる幼児の守をして居ると云ふ状態であります。さうして夫婦で働いて居るので、生活の費用を申しますと、米と麥とを合せて食べて居りまして、三等米九合に麥三合を加へて一升二合食べますが、此代金が二十六錢五厘、副食物の代が十七錢、漬物味噌醬油の代が六錢五厘、薪炭費が六錢、湯錢が四錢五厘、交際費が二錢、水道の費用が一日に割つて二錢、一家族の小遣が一日十五錢新聞雜誌代——是は少し職工と違つて幾らか讀書力もありませんから新聞の外に雜誌を取つて居ります。新聞は大阪毎日を取つて居る、雜誌は實業之日本を取つて居る、それから細君も少しハイカラと見えて婦女界と云ふ雜誌を取つて居る、此三つの新聞雜誌の代が日割にして三錢、それから被服費が十錢、家賃は社宅に居つて一日十五錢、煙草代が五錢、雜費が十二錢、さうすると一日費用が一圓三十四錢四厘であります、即ち夫婦共稼の収入では足りない、十九錢四厘の不足となります。

先づ我國に於ける職工勞働者の生活の模範的のものであります、善い意味の模範でもありませんまいけ



れども、謂はゞ職工労働者の生活状態は斯う云ふのであります。是は兎に角一家族が健康で無事で暮して居る時の生活状態であります。若し一旦夫婦の一方若くは家族の一人が病氣に罹つたと云ふやうなことがあると、それは實に大變なことになるのです。主人公が病氣に罹つた場合を考へますれば、固より亭主は日給であるから収入がなくなります。収入がなくなつて而も藥代或は診察料を出さなければならぬと云ふやうなことになるので、一旦病氣に罹るとか或は不幸災害に出遭ふ時には百年目であります。殆ど拾收することの出来ないやうな大恐慌が起つて來るのであります。それ故に彼等は金融に非常に困る、そこで彼等の社會には多く金貸業者が蔓つて居る、金貸業者と云ふても金貸を商賣にする所の所謂高利貸なる者ではなくして、工場内に居る所の職工長とか組長とか云ふやうな者が、多少自分の収入に餘裕のあるに任せて金を貸すのです。一體其一箇月の利子がどの位かと云ふと、一圓借りて安くて一ヶ月五錢、高いのになれば十錢ですが、年に當て、勘定すれば六割、高いのは十二割に當ります。是だけの利子を拂はなければ金を借りることが出来ない、であるから彼等が一旦金を借りたならば終生頭が上らないのです。實に慘憺たるものであります。

私は先年施藥救療の大詔の喚發されました折に實際労働者の生活状態が如何なものであるかと思ひまして、多少東京市内の貧民窟に在る所の質屋の状態を調べたことがあります。さうすると實に驚く事があるのです。中には朝御飯を焚いてまだ御飯の残つて居る所の御鉢を質屋に持つて行く、さうして幾ら

かの資本を拵へて、屑屋などは屑買ひに出るとか、或は何か小さい商ひをすると云ふやうなことをやつて居る者があります。又或者は着物をスツカリ質屋に置いて了つて、夏などは裸身同様で暮して居る者がある。冬でも着物をスツカリ質屋に置いて了ふことがある、裸身の儘で煎餅蒲團の中にくるまつて居る、折から來客でもあると出るに知られず引込むに引込まれず奇妙キテレッツな状態を呈することがあります。着物ばかりでなくして手拭の如きものまで質に置くことがある。甚だ下等の話でありますけれども、實は湯文字のやうなものですら質に置くことがある。下谷の金杉町の質屋に行つて調べた所が、一錢五厘とか幾らかで湯文字を質に置いて、さうして薩摩芋を買つて餓を凌いで居る者があつた。勿論それ等は立ン坊のやうな者です。職工勞働者と幾らか違ひます。違ふとは云ひながら、何か事のある時には殆ど彼等の生活狀態と變る所はないのです。

私は嘗て下層勞働者の生活狀態を調べたいと思ひまして、立ン坊を調べたことがあります。多少統計的に百五十人ばかりの立ン坊を調べました、其の中驚いたことがあります。百二十人ばかりの中で教育程度を見ますと、中學卒業生が五人ありました、殊に最も私の驚きましたのは、百二十人の中で外國語學校の卒業生が一人あつた、それから習志野に陸軍の騎兵伍長をして居つたと云ふ者が一人あつた。

木賃宿に居る下層勞働者の生活狀態と云ふものは、暢氣と云へば暢氣でありますが、悲惨と云へば是以上悲惨なことはないのであります。此等の社會に一種の通り言葉があります、即ち「川越チャブ」と云

ふのと「金チャブ」と云ふ語がある、今日は川越チャブで済ませたとか、金チャブで済ませたとか云ふことを言つて居る。初めはどう云ふことであるかサツバリ分らなかつたが、チャブと云ふのは食べるものと云ふ意味です、それは尤な譯であつて、例へば吾々でも食卓をチャブ臺と申す、即ちチャブと云ふのは食と云ふことであらうと思ひます、それから取つた語であります。川越チャブとか金チャブと云ふ、川越と云ふのはどうかと云ふと、是は川越芋と云ふ略稱ださうで、即ち普通の米を食べないで焼芋を以て一日を済まして居るのです。更に甚しいのは金チャブと云ふのでありまして、金チャブの金は金魚の略稱です。そこでキンチャブと云ふと金魚のやうにバク／＼口を開いて水ばかり飲んで一日を暮らすのです。今日は川越チャブをやることが出来ないからキンチャブで済まさうと云ふ。實際水か粥位を飲んで一日を済ますと云ふことは珍しくないのです、殊に生活費の暴騰した時にはそれが尠くない。

斯う云ふ風に下等の労働者と云へば川越チャブ位で済ます者は尠くない、一日三食共川越チャブで済ませる譯にも行かない、日本人は米を食べるから川越チャブだけでは済まされないが、併し一日に一度位は川越チャブで済して居る。さうでなくても極くわるい方でキンチャブに近いやうな粥を啜つて一食を済ませて居る者が尠くない。であるから特殊小學校と申しまして貧民の子弟を集めて特別に教授をして居る學校に行きますれば、午前中は體操などをせざると卒倒する者がある。下谷の萬年町の坂本と云ふ校長と懇意でありまして話を聴きますが、卒倒する原因は朝飯を食はないで來ると云ふのです。キン

チャブもやらないで來ると云ふやうな者があると云ふ譯ですから、過激な運動をやらせると倒れるのは當り前である。獨逸流に訓練したら胃囊が小さくなるかも知れませぬが、まだそれまでに胃袋が訓練されて居ないからどうもそこは旨く行かないのであります。さう云ふ有様でありまして、生活状態が如何に慘憺たるものであるかと云ふことは、之を以て想像することは難くないと思ひます。

さうすると其等の労働者の衛生状態健康状態はどうであるかと云ふと、是れ亦前の生活状態より想像するに難くないのであります。茲に私は農商務省で調査致しました所の工場衛生調査資料と云ふものを持つて參りました。是は先年生産調査會なるものが設けられて一部配付になつたものであります。此中に工場労働者の衛生状態と云ふものが精細に書いてあります。是は一々申上げるとは煩雜に亙りますから申上げませぬけれども、唯工場労働者の健康状態が如何であるかと云ふことを申上げます爲にホンの一二の例を挙げます。

此調べに依りますと、十の紡績工場に就て調べたのであります。十の工場の職工總數五萬四千三百十一人の中、一年に死亡する者の數が百八十八人でありました。割合を以て申しますれば千分の六強と云ふものが一年の中に疾病又は負傷の爲に死んで行くのであります。それから病人の數が五萬四千三百十一年中で一年に一萬七千八百二十四人病氣に罹ります。割合で申しますと全體の三割強に當ります。而して其中でどう云ふ種類の病氣が多いかと申しますと、呼吸器病が多いのであります。此數が三千七百

六十六人、即ち全體の病人の約二割に當つて居ります。それから是は營養の關係が多いのでありますが胃腸病がある。胃腸病は全體の病人の中で四千五百八十八人、即ち約二割五分を占めて居る、斯う云ふ有様であります。眼病も中々多い、トラホーム患者が全體の中で二千九百九十四人約七分ばかりに當ります。更に職工千人に付ての割合を申しますと、職工千人に就て一年に病氣に罹る者の數が五百十九。八人と云ふことになつて居ります。割合で申しますと殆ど半分以上は病氣になる。それから業務に依る負傷もなか／＼尠くないのであります、此數が二十三・四人と云ふ割合になつて居ります。

序に紡績工場及印刷工場などに於て徹夜業をやりますことが職工の衛生上に如何なる影響があるかと云ふことを統計に依つて示されて居りますから其れを一言申し上げます。是れは紡績工場も印刷工場も各々甲乙と兩つに別けてありまして其人員も違つて居ります。甲の紡績會社は調査人員が八十一人でありまして、晝夜交替の交替期間と云ふものが七日間であります。そこで七日間徹夜業を繼續すると體量がどれ程減ずるかと云ふことを調べますと、一人平均夜業後に減ずる量が百七十匁である。それが更に晝業に返つて一週間やると回復する體量が六十九匁である。差引回復されない量が百一匁である。一週間に百一匁であるから、其割合で行くと一年には餘程體量が減ずる譯であります。是れは最も甚しい例であります。それから乙の會社は、調査人員が六十九人、交替期間が同く一週間でありまして、さうして夜業に於て一人平均減ずる體量が百六十五匁である。夜業後の晝業期間中に回復される體量が百三十五

夕である。差引回復されない量が三十九夕であります。是れは餘程少いけれども、併しそれが一週間のことでありまして、交替々々に行つて一箇月二度あるから一箇月の減量は大きなものであります。それから印刷工場の方を申しますと、甲種の工場は調査人員が二百四人で、交替期限が同く七日であります。さうして一人平均夜業後に體量の減すること二百六十五夕であつて、次の交替期までに回復される量が六十三夕である。是れは回復されない量が最も大きいので二百二夕であります。乙種の印刷工場は幾らか良い。調査人員が八百三人、交替期間が同く七日でありまして、一人平均夜業後に體量の減すること百四十一夕、晝業期間に於て回復する量が百十九夕である、即ち回復されない量は二十二夕であります。併し一箇月に四十四夕、一箇年に積ると殆ど五百夕から減するのであります。

斯う云ふ數字を示して居るのでありますが、而も斯様な徹夜業に従事して居る者は其大多數は妙齡の女工であります。十二三歳から十四五歳、或は十七八歳二十歳前後の女工であります。私の友人で内務省と農商務省の囑託をして居る衛生學専門の石原と云ふ醫學士の女工の衛生狀態を研究した結果に依りますと、日本全國の女工の數が五十萬人あつて、其中で毎年の出入が二十萬人ある。さうして二十萬人中満足に仕事を終へて故郷に歸る者の數が年々八萬人であつて、殘十二三萬人は多くは非常に身體が衰弱して、病氣になつて故郷に歸るか、然らざれば死ぬるか若くは工場に働いて居る内に墮落してしまふとか、又は男工など情死してしまふと云ふことであります。日本の工業の大多數と云ふものは女工の

労働に依つて支へられて居るけれども、其日本の工業と云ふものが年々十二萬人の女工を犠牲にして居る。八萬人の女工を潰して工業が榮へて行つて居るのであります。是れは實に重大なる問題であると謂はなければならぬ。女工は未來の國民の母である。其未來の國民の母たる者がさう云ふ譯で體力が衰へて行く。而も様々なる原因の爲めに斃れる者の數が年々八萬人あるとするならば、則ち將來に於ける日本國民の體力と云ふものは衰へざらんと欲するも得べけんやである。私は門外漢でよく分りませぬけれども、高木兼寛男などが、度々御講話をなさる所を承りますと、日本では年々徴兵検査を行つて見ると壯丁の體力が衰へて行く、視力も衰へ身長も短くなり、體量も減つて行くと云ふことであります。果して其れが事實であるとするならば、壯丁の體格問題と云ふものは労働問題と密接なる關係があると謂はざるを得ないと思ひます。又是れは獨り壯丁の検査の結果のみならず、或は官立私立學校の入學試験が年々行はれて居りますが、其試験を受けんとする青年の體格の衰へて居ると云ふことも統計上明かに見ることが出来るのであります。其原因は一にして足らざること、思ひますけれども、特に壯丁即ち兵隊になる者の大多數が労働者階級の者であると云ふことを思ひますならば、労働者の健康状態が如何に壯丁の體格に影響するかと云ふことは吾々の最も眞面目に考へなければならぬ大問題であると私は信ずるのであります。

私が亞米利加に行つて居ります時——丁度昨年十月でありましたが、桑港のサンフランシスコブレ

ミチンと云ふ夕刊新聞に於てラッセルと云ふ博士が此度の歐洲大戦亂に關する意見を發表しましたが、其中に實に聞捨にならぬ大事件が含まれて居つたのであります。即ちラッセル博士は獨逸の兵と英吉利の兵を較べて、何故に獨逸の兵が強く英吉利の兵が弱いかと云ふことを面白い處から觀察して居るのであります。其説に據りますと、英吉利に社會政策なるものがないから今まで労働者の保護と云ふことが行はれて居なかつた、獨逸は既に三十年四十年前から社會政策が行はれて、労働保險を初め其他種々の労働者保護と云ふことが進んで居る。英吉利の労働者の生活状態を見れば非常に粗食をして居る。且つ細民窟の非常に不健康な處に住んで居る、英吉利の兵隊は胸膈も狭くつて總て身體がヨロ／＼して居る實際の戦争に堪えることが出来ない、獨逸の兵隊は大多數は素より労働階級の出身であります、労働保險其他社會政策の行はれて居る爲めに其生活が裕かであつて、其健康状態が遂に優つて居る、體格の點に於てもガツシリして居る、労働者の心に不安と云ふものがない。心に不安がないために一旦緩急ある時には彼等は全力を提げて國家の爲に働くことが出来るのであります。即ち英吉利と獨逸との兵力の強弱は社會政策の比較の問題となつて來たのであります。私は此に於て日本の労働問題と云ふものに就て大に教訓の潛んで居ると云ふことを感じたのであります。

更に昨年桑港に開かれました所の労働大會には英吉利の四百萬の労働組合の代表者が二人と、加奈陀から來た代表者が一人居りましたが、其英吉利から參りました代表者のベピンと云ふ人が演説をした、



非常な雄辯であつて約一時間半の演説を致しました。それは戦時に於ける英吉利の労働者と云ふ題で演説をした。今一々御紹介することは出来ませぬが、特に切實に感じたことは彼等労働者には殆ど愛國心と云ふことを認むることが出来ないと言ふことであります。其人が申しました。愛國と云ふことは單に國を愛するばかりではない、階級を愛することも亦愛國であると。而して更に赤裸々に演説して申しますには、吾々労働者に取つては、吾々を支配する者がギング・ジョージであらうが何であらうと、カイゼル・ウキルヘルムであらうと關はる所はない、吾々の生活を如何に向上せしむるか、吾々の生活を如何に裕かにせしむるかと言ふことが大なる問題である、と。斯う云ふことを其大會の席上に於て述べて居る私は一方にラッセル博士の意見を讀み、一方に於て殆ど時を同うして英吉利の労働組合代表者の此演説を聽いて慄然として肌粟の立つを感じざるを得なかつたのであります。

日本の國民は愛國の精神に於ては世界無比であると云ふことを吾々は思ひ世界の人も亦容して居る。併乍ら、此度の大戦争に於て英吉利の労働者の中に一點愛國の精神を認めることの出来ないのは何の爲であるか。ラッセル博士の言葉を借りて申しますれば、社會政策と云ふものが十分に行はれなかつた爲めである。其爲めに労働者は斷へず苦闘を續けて來た。英吉利は世界第一の富國と稱へられて居るけれども、其英吉利の富の大部分は極めて少數の富豪階級の占領する所であつて、多數の國民、就中労働者階級は英吉利の富力と云ふものに對しては殆ど關する所がない。富に由つて得る所の快樂、富に由つて得

る所の誇、富に由つて得る所の種々の榮譽と云ふものは殆ど少數の富豪階級の獨占する所となつて多數の労働者階級は之に關らざるが故に、彼等が國家存亡の秋に際つて愛國心を發揮することが出来ないと思ふことは、大に考ふべきことであると思ひます。人は何と言ひましても自分の衣食の問題が最大の急務である。衣食の問題と云ふことが國を守ると云ふことゝ一致するときに於て其處に愛國の意志が猛然として一層と熱と力とを加へて來るのであります。鹿の溪水を慕ひ喘ぐが如く人は自ら自分の生活問題に向つて自分の思を注いで行くのである。英吉利の労働者階級に愛國の熱心がないと云ふことは彼等の階級として虐待されたが故であります。私が右のペビン氏を其ホテルに訪ねました時に、英吉利の労働組合は徴兵説に反對である。英吉利人は自由を愛する國民である、自由を愛する國民は徴兵説に賛成することは出来ないと思つて居りました。成程私が昨年十二月十八日に桑港を出發して日本に歸つて來てから外國電報を見ると其人の申しました通り、英吉利では労働組合大會を開いて徴兵制度に反對して居る。是れは實に私は國防と云ふ立場から考へて大問題であると思ふ。私は軍事上の事に就ては門外漢であるから能く分らぬけれども、私は國防の充實と云ふことは強ち兵員の數を増すばかりではないと思ふ。又軍器の改良と云ふことばかりではないと思ふ。實際に其精銳なる軍器を執つて戰場に立働くところの兵士の體力と云ふものが之に續かなければ、又敵愾の精神が振はなければ如何に參謀本部に於て策を帷幄の中に運らすと雖も勝を千里の外に制することは困難であると思ふ。是に於て私は國防問題と労働問

題とは密接なる關係があると云ふことを思はない譯に往かないのであります。

餘り時間がないから搔摘んでお話を致しますが、然らば労働者の教育の程度は如何と申しますに、是れも統計の徴すべきものは無いのであります。大體私が此位だらうと推定致します所を申し上げますと高等小學校を卒業した位の程度の職工は全體の數の先づ一割位あると思ひます。それから尋常四年卒業程度の者が五割五分位である。年若い職工などは目に一丁字のない者は殆ど無い。唯今の義務教育即ち尋常小學六年を卒業した程度の者は先づ二割二分であります。それから工場内外に働いて居る労働人夫には今でも目に一丁字のない者がありまして、是れは凡そ一割位はあると思はれます。そこで學校教育の程度から申しますれば日本の職工の教育程度は強ち外國の其れと較べて劣つて居るとは思へない。私は亞米利加に半年許り居る内に力めて労働者の中の首領連中と交はりました。其連中の教育はと申すと、先づ大抵向ふのグランマースクール卒業位である、即ち八年位の程度を卒はつた者である。随つて平の労働者の中には無論其以下の程度の者が澤山あるに違ひない。さうすると日本の職工労働者の學校教育の程度と云ふものは亞米利加の職工労働者と較べて強ち劣つて居ると申すことは出来ないと思ふ。併しながら茲に一つの問題があります。亞米利加の職工は、成程學校教育は八年位であるけれども、卒業後の社會教育と云ふものが發達して居る。到る處に圖書館と云ふものが設けられて居るし、或は名士の講演と云ふことが種々の會合に於て催される。或は新聞雜誌と云ふものが低廉に普及されて居ると

云ふやうな事からして、亞米利加の職工は社會教育を受ける機會が極めて多い。それから労働時間が八時間若くは九時間、長くて十時間を超えないから、労働の餘暇を以て勉強することが出来る。日本の労働時間は短くても十時間、十四時間、若くは十六時間と云ふやうな有様であるから、志有る労働者と雖も到底勉強すると云ふことは出来ない。さう云ふ譯でありますから、日本の労働者は學校教育を卒へた後社會教育に依つて其學校教育を磨き上げる機會がなく、既に受けた學校教育が段々退歩する。そこで日本の労働者と亞米利加の労働者と比較するときには莫大な相違がある譯であります。私は亞米利加の職工連中と屢々話をして見ましたが、専門の事になりますれば實際私程に知つて知る者は澤山なかつたけれども、併し一般常識的の問題の事に就いては到底私共跣足になつても及ばない程に物識である。斯う云ふ譯であります。日本では折角物に成つた者が段々下がつて行き、亞米利加では或程度まで行つたものを益々磨き上げて行く、斯う云ふ相違がある。是れは私は職工労働者に發明或は發見と云ふ機會を與ふる點に於ても余程の違ひがあると思ふ。

斯様な生活状態であります。日本の労働者は然らば何う云ふ考を以て一體其日々を送つて居るか労働者の心理状態は如何なるものかと云ふことを私の實驗に徴して多少申上げたいのであります。私の實驗と申しても、さう澤山の實驗がある譯ではありませんぬけれども、大學に居る時分から社會政策の方面に興味を有つて、或は救世軍の労働寄宿舎に行つたり、養育院に行つたり、若くは貧民窟といふ貧民

窟の調査を致したり、又印絆天腹掛と云ふ姿になつて木賃宿などを泊つて歩いて、最下層の労働者の生活状態を幾らか知つて居ります。唯今でも友愛會といふ労働團體を作つて居りまして、其數が一萬六千人あります。此等に就いて過去數年に於ける實驗に依つて得た有様を申し上げますと、日本の労働者の大多數は殆ど將來に對する考が無いと言つてもよい、今日は今日、明日は明日——明日と云ふことも考へるか考へないか分らないと云ふやうな者が多い。所謂恒産無き者は恒心無しで、恒心が全く無いと言つてよい。勿論少數の者は段々分りかけて來ましたけれども、大多數は今尙ほ無自覺の状態で、混々として長夜の眠を貪りつゝあるといふ有様である。それでありませうから自分の業務と云ふものを轉々として少しも落着がない。恒心が無いのです。現存の業務に満足して居る者は一人もないといふ有様で何か好い口があつたら他に行かう他に行かうと云ふので鵜の目鷹の目で探して居る。自分の職業を神聖なりと考へ此職業を自分の終世の職業として働かうと云ふ考の者は一人も無いといつても過言ではない。其譯です。どうか少しでも暮らし向の都合の好い様にしやうと思はない者は誰もない。それで一方に職業の轉換をやると共に他の一方に於ては始終快樂を追求して居る。而も最も刺戟の強い快樂を追求して居る。労働者は不品行であるとか、猥褻なことが多いとか、或は酒を飲んで喧がしいことをすると云ふやうなことを言はれて居る。併し是れは無理はない。一日十二時間も十三時間も、殆ど朝起きてから晩寝るまで働き通しに働いて居つて、風呂に入る餘裕もない、新聞一枚讀む餘裕もないといふやうな者が偶々休日

得る、一ヶ月に一度か二度位の休日であるから、殆ど饑えたる虎が肉を争ふ様に、さうして極めて刺戟の強い、直接肉體を刺戟する所の快樂を追求すると云ふことは、之を止める方が無理である。決して不品行が宜いと云ふ譯ではないけれども、勞働者の狀態を考へ人間の本能を考へるときには強ち之を咎むることは出来ないであります。斯う云ふ狀態でありまして、工場内に於ける勞働の爲めに體力を消耗するのみならず、不品行の爲めに更に自分から體力を消耗して居る。花柳病なども即ち彼等が道徳的に墮落して居ると云ふことを證明するものであつて、彼等に高尚なる快樂娛樂と云ふものがなくして直接刺戟するものに非ざれば其心身を慰安することが出来ない爲めに起ることであると思ふ。それで彼等はセンチメンタルである。熱し易く冷め易い。であるから、二三年前に流行した日比谷の騷動——焼打騷動なども、ワツシヨイ、ワツシヨイと云ふ仲間には勞働者が大多數を占めて居た。亢奮するとフアーツと騒ぎ立つ、其代り雨でも降つて來れば忽ち鎮まる。實に淺見と云はうか短慮と云はうか、何とも申様がない。そこでストライキなどを起しても大抵三日坊主です。殆ど先の見透しが付かないのです。一體自分達が此ストライキをして工場主に對して勝つことが出来るか何うかと云ふ考はない、唯々癢に障るやれ〜と云ふので直ぐに應ずる、應ずるけれども後がない。頭株が買収されたら他は皆降参して了ふ其代り悪い煽動者があつて煽動すればどんな暴行をしないと限らない。一方から言へば大變に扱ひ易いけれども、又一方から言へば厄介千萬なものであります。

さう云ふ状態でありまして、彼等は所謂群衆心理に依つて支配されるのでありますから、非常に卑屈です。權利であると思つても之を主張することが出来ない。自分の利益であると思つても其れを貫く意志がない。長い物に巻かれるといふ考が強いのです。

先づ斯くの如き有様でありますが、而も彼等は自分自身の境遇に満足しない。満足しないから常に不平不満の心を以て仕事に従事して居る、随つて仕事をして良い品物を造る筈がない。日本の品物は粗製濫造だと云はれて居りますが、確かに粗製濫造であるのです。私が亞米利加に居ります時に、桑港で萬國博覽會が開かれました、日本の製造品も出品になつて居りましたけれども、何うしても外國品に較べると粗製濫造と云ふことを免れない。殊に漆器の如きは亞米利加の氣候に適はぬ爲めに少し空氣の乾燥する時には曲がつたり割れたりするので、日本の漆器は到底亞米利加に用ひることが出来ないといふ評判を抱いた。是れは一つは所謂科學的經營と云ふやうな才能のない爲でもありませんけれども、私は一つは職工の知識技能と云ふものが十分でないといふことが大なる原因ではないかと思ふ。斯う云ふ譯でありますから歐洲大戦争の後に必ず起り來るべき所の産業上の争に於て日本は果して優勝なる地位を占めることが出来るか否やと云ふことが私は疑問であると思ふのであります。例へば商賣の仕方にしましても、どうも組織的でないやうに思ふ。最近私の知つた例で申しますと、日本で時計製造といへば名古屋の工場なり或は東京の服部時計店で造つて居るものが主なるものであつて、今では南清地方から南洋

地方に行つて居るさうであります、今度の戦争で獨逸の輸出が止まりましたので、鬼の居ない間に命の洗濯と云ふやうな譯で盛に輸出して居ると云ふことでありますけれども、それが皆値段で以て競争をして居る。どちらが時計を安く賣ることが出来るかと云ふ様に値段で競争して居る。値段で競争して居ると勢ひ品物を崩さなければならぬ、職工の手間を減らさなければならぬ、随つて品物を粗製にするから必ず何時かポロが出て来る。ポロが出て来るならば日本製の時計に對する信用と云ふものを墜すことがどれだけか分らない。其處へ持つて行つて戦争後獨逸が恐るべき組織力を以て盛に海外に發展して來たならば恐らく日本の製品は驅逐されはしないかと云ふことを聞いて居ります。さういふ風に商賣の遣方にも製造の仕方にも組織と云ふものが缺けて居る様である。而して其結果が労働者の頭に來る。労働者の頭に來て賃銀が減らされる、時間が長くなる。そこで労働者の健康状態が衰へる、品性が衰へる。而も其労働者と云ふものは日本國民の大多數を占める所の階級である。然らば日本國民の大多數を占める所の階級が段々衰へて行くと云ふことを證明するものである。是れは實に容易ならぬことであると私は思ひます。

それから日本の資本家といふ側の人達が労働者の心理状態と云ふものを餘り御承知ないやうに思ひます。労働者は唯々上から命令すれば何でも之に従ふものであると考へて居る様に思はれます。所が近頃の労働者はなかく然うは往かない。教育の程度が進まぬと云つても、兎に角十年二十年前の労働者に



比べれば其程度が幾分か進んで居る。それに立憲政治の運動であるとか、憲政擁護の運動と云ふ如きことに刺戟されて、なか／＼労働者と云ふものは——先刻申した所と矛盾する様であるけれども——常識には缺けて居る所があつても、さう云ふ方面のことには中々頭腦が鋭敏になつて居る。資本家側の人は餘程其處に注意しなければならぬと思ふ。殊に資本家側の人々が相當に分つて居つても、其れに附いて居る所の所謂事務員であるとか或は技師技手と云ふ人々は労働者の心理状態が能く分つて居らないで労働者を輕蔑するといふ風が多い。そこで労働者の方では、無暗に反抗しては飯の喰上げになると云ふので表面は大人しくして居るけれども、内に不平の氣を抱いて居る。不平の氣を抱いて居るから何か事の有るときに其不平が勃發する。平生に於ても仕事の成績の上に非常な影響を及ぼして居る。是れが一つは日本の工業組織の一大缺點であると謂はなければならぬ。日本の技師技手と云ふやうな階級の人々は多くは學校出の者である。實地の經驗がなくして机の上の議論ばかりでやつて行かうと云ふ人が多いやうに見える。實地の訓練を缺いて居る。實地の方は五年なり七年なり十年なり實際に就いて叩き上げた者に劣るのです。然るに算盤珠や或は机の上で計算したことを以て労働者に命ずる。労働者の方では其れでは實際出来ないと思つても、命ぜられるから其れに間に合ふ様に拵へる。是れは請負仕事の場合ですが工場主は營利と云ふことが目的であるから算盤珠の上から割出して工場に命ずる。工場の方で其れに依つて職工に割付ける。さうすると例へば二時間掛からなければ出来ないと思つても請負であるから一時

間半で仕上げやうとする。そこで何うしても仕事に無理が出来る。これは多くの人が氣の着かないことでありませうけれども大問題であると思ひます。私は實例を澤山知つて居ります。例へば日本で軍艦若くは普通の船の製造工場などに於てもさう云ふことが往々にして行はれて居るさうであります。實際職工の方では此處は斯うしたいと思つても、上からの命令で不安心ながら取付けると云ふ様なことが有ると云ふのです。私は或造船職工に聞いたのであります。其の軍艦を自分がやつたけれども彼處は思ふ様でないと思ふことを言つて居る。斯う云ふことは獨り軍艦製造だけではないと思ふ。兵器の獨立と云ふことも大問題でありますけれども、其の兵器を造る所の職工が如何なる考を以て造つて居るかと思ふことを十分研究して造り上げるではなければ兵器の獨立問題も或は机上の空論になるかも知れぬと云ふことを恐れるのであります。斯う云ふやうな事柄が非常に多いのでありますから、所謂資本家工場主等は能く此の職工の状態を呑込んだら宜しからうと思ふ。日本の職工は外國の職工に較べれば非常に從順であります。けれども、職工と雖も亦一個の人格者であると云ふ考を以て遇するに非ざれば到底資本家工場主に屈服するものではない。兎に角算盤だけを以て仕事をする人は職工を自分の金儲の道具にすると思ふ様な氣味がある。私は労働者の方を主に視察して居るから或は見解が僻して居るかも知れぬ。若し僻して居ると云ふならば其の點に就いて教を乞はなければなりません。私の觀た所は然うである。一例を以て申しますれば、關西地方の或大工場に於て斯う云ふ話があります。其處の社長さんはなかく精力

主義の人である。朝早くから夜遅くまで工場に来て働いて居る。而も名門の人であります。其の御方がよく工場内を御見廻りになるさうです。さうして職工などに親しく口を利かれる。其の點は職工も喜んで居りますが、何しろ謂は「お坊ちやん育ちと云ふのでありませうか、職工の心理状態と云ふものが分らないと見えまして、現に此の間斯う云ふことがあると言ふて職工が憤慨して居つた。此度の戦争の爲めにいろ／＼注文を引受けて仕事が忙しくなつた爲めに外國から二萬圓で或新式の機械を買入れた。其の機械を使つて職工が仕事をして居る際に、側にお出でになつた所の其の社長さんが、オイ、君此機械は今度二萬圓出して買つた機械だ、是れは容易に掛替がないぞ、二萬圓といふ金は非常な大金で君等が一生掛かつたつて此の機械を買ふことは出来ない、君等の身體には掛替があるけれども此の機械には掛替がない、君等の身體は少し位傷んでも構はぬから機械だけは大事にしると、斯う言はれたさうです。之を聞いたら誰でも怒る道理であります。其の職工は齒切りをして私に話して居りました。之に似た様な話は澤山有るのです。氣の着かぬことで斯う云ふのが澤山有る、又斯う云ふ小さいことで職工の感情を損ねてしまつて、良い品物を造り得ないことも澤山有るのであります。

斯う云ふ譯でありますが、又一方に於きましては、資本家は職工労働者の心理状態を知ると同時に警戒しなければならぬと思ふことは、下層社會に於ける危険思想の瀰蔓と云ふことであります。是れは表面に現れては居りませぬけれども、恐るべき勢を以て蔓延して居るのであります。私共の聞く所に依れ

は社會主義者、無政府主義者など、云ふ人が毎週一回講習をやつて居る。其の講習に出席する者は各々二十名位あると云ふことであるが、其二十名は學生と労働者である。労働者の中にも頭腦の好い者などは其處へ行つて無政府主義なり社會主義なりの講習を受けて居る。さうして或は三箇月或は六箇月經つて一通り其の主義を呑込むと彼等は方々へ行つて労働者の群に入る。又社會主義無政府主義者は、所謂危険思想と云はれる人々は種々なる出版物を出します。警視廳などが随分やかましく言つて暗から暗へと葬られるものがあるさうであるけれども、後から後から、手を變へ品を變へて現れて来る。そこでさう云ふ思想の傳播することが尠くない。多少の文字ある者は随分さういふ思想に感染して居る。私共の會は全國に六十二三の支部がありますが、其の事務所に社會主義の思想を宣傳する所の雑誌を配つて來る。其の雑誌の中に私共の惡口も書いてある。私共は資本家の肩を持つて労働者を愚にすると云ふ風に見えるかと思はれます。生溫いことを言つて労働者を胡麻化すのだと云ふやうな立場から攻撃も随分やられました。兎に角様々な危険思想所謂サンチカリズムと云ふ如き思想に近い様な危険思想を書いた所の出版物が配付されて居る。是れは警視廳が如何に活動しても全部を抑え切ることは逆も出來ないやうに見える。さういふ事をやつて居る者の中には彼の幸徳の殘黨なども有るのです。是れは實に重大なる事であると思ひます。一方に於て労働者の生活状態が困難であり、さうして労働者の中に不平不懣の氣があると云ふことは實に恐るべきことであると思ひます。表面に於ては大抵な人は氣が着かないが、少

し眼を轉じて社會の裏面を観るとさう云ふ有様になつて居るのであります。

私はさう云ふ事があつてはならないと思ひまして、及ばずながら數年前より日本の労働者の労働運動をやつて居るのであります。人は各々思ふ所があり、志す所があり、考へる所がある。物其平を得ざれば則ち鳴る。其の思ふ所考へる所志す所を合理的に伸べしめざれば必ず不合理的に伸びやうとする、規則的に伸べしめざれば必ず不規則に伸びやうとする、何かしら一種の不平不懣があるとするならば其の求むる所をして適度に伸べしむることが必要であると思ふ。私は其の意味に於て日本の政府がもつと進んで社會政策を實行すること恰も獨逸の如くであることを望むと共に日本の労働者の合理的の運動のあることを望むのであります。日本の労働者に團體と云ふものがあつて合理的の運動が行はれなければ、イザと云ふ時に労働者を集めやうとしても、それは泥坊を見て繩を縛ふ様なものである。而も平生に於て健全なる労働者の自治或は自治運動が起つて居るならば適當の訓練と云ふものが出来る。訓練が出来のみならず、一旦事有る時に臨んでは即ち國家の爲めに大に役立つことがあると思ふ。先刻獨逸では労働者の方から半數、資本家の方から半數、同じ數の役員が出て同じ權利を以て獨逸の労働者案配問題を解決して居ると云ふことを聞きましたが、流石は進んで居ると思ひます。日本では不平が斷へない。是れは私は餘程考へなければならぬ大問題であると感じました。斯う云ふやうな次第でありますので私は自ら憚らずして敢て此の問題の解決に當らうといふ考を有ちまして、而も労働方面の問題を以て聊か

君の爲め國の爲めに一身を獻げて盡したいと云ふ考を以て従事致して居る次第であります。

明治天皇の御聖徳を偲び奉りまするならば實に數限りなく有難いことは多いのであります。又其の御一生涯に於ける御製を拜誦致しまする時に於て實に下層社會を憐み給ふところの大御心の深いことに感ぜざるを得ないのであります。其中で一つ忘れんとして忘れることの出来ない御製があります。

明治天皇は寒い折にも御避暑遊ばされず、夏の炎天にも御避暑遊ばされなかつた。實に畏多い御謙徳に富まれた御方でありますが、其の御製の中に。

あつしともいはれざりけりにえかへる

水田に立てる賤をおもへば

多分夏の炎天に御退屈の折の御製であらうと思ひますが、暑いとは言へない、衰え返る様な田の中に立つて働いて居る百姓労働者の有様を考へると暑いなどいふことを口に出すことは出来ないといふ有難い御製であります。尙斯う云ふ意味の御製は尠くないのでありまして、いろ／＼労働者に御同情の深い御製が澤山有ります。私は日本の國民全體が先帝陛下の御志を志として、さうして下層社會の者に對して一視同仁の考を以てやつて行きましたならば、日本の國の内輪に於て資本家と労働者と衝突はなくして圓滿に平和に治まつて行くではないかと思ふのであります。労働者は實に下等な者であるかも知れませぬけれども、而も労働者と雖も是れ實に陛下の赤子である、吾々其の同胞の一人で

ある。之を思ふときには彼等下層社會なるが故に之を蔑視することは出来ないと思ふ。而かも國の基礎となり國の原動力となり國家の文明を進める所の源泉となるものが労働者の勞力であるといふことを思ひますときに、彼等労働者の勞力に對して尊敬を拂はざるを得ないのであります。労働者の労働を尊重し労働者の労働を神聖にするといふ考を以て起りましたならば労働者が如何に發奮して其の能力を發揮するでありませう。私は殆ど測り知ることが出来ないと思ふのであります。國防問題の背後に労働問題があるといふことを思ひますときに、私は労働者の體力、労働者の健康と云ふものが日本の國家社會の將來に大關係があると云ふことを思はざるを得ないのであります。此の意味に於て今晚は多少の御參考にもならうかと思ひまして、長く多辯を弄して御清聽を煩はした次第であります(完)

飯と汗木綿着物ぞ身を助く

其餘は我を責むるのみなり

(二宮尊徳)

師 侃

寂寞山房春又和  
屋頭自有一溪水

曾無人跡到柴扉  
洗盡多年兩耳非